

# 第6回 日中韓物流技術交流会 報告

去る6月21(木)~22日(金)の2日間、中国物流・購買連合会、中国機械工程学会、韓国物流協会等の主催、流通研究社の共催による「第6回・日中韓物流技術交流会」が盛大に開催され、日本・中国・韓国3か国の物流業界関係者約160名が参集した。日本側からは交流団を編成・派遣、計29名(現地参加も含む)が参加している(写真・図表-1~3)。

天津市は600年以上の歴史を有し、中国北方地区における工業都市としても100年以上の歩みを重ねた中国4大直轄市の1つである。北京オリンピックの大プロジェクトにからめ、「天津を第2の浦東に!」と標榜しているところで、胡政権の中樞を担う温家宝首相の出身地でもある。今後も北方の工業・経済と商業貿易の中心地として、発展すること

が期待されている。

今回の物流技術交流会では、「物流技術と応用事例」というテーマで日本・韓国・中国から14社より事例発表を実施。今回もメインの発表として日本側からは(株)ウェルキャット、(株)岡村製作所、(株)ダイフク、(株)デンソーエスアイ、ニッタ(株)、村田機械(株)の6社が発表を行った(写真-4~10)。

3か国の物流技術業界関係者が交流を深め、実務的なケーススタディーとして企業見学を併用したプログラムが特徴となっていた。

## 天津港の現場見学

大きな生産地・消費地である北京を後ろに控え、神戸港の友好港でもある天津港は、中国北方港のトップである。現在、世界約180か国・地



写真-1 交流会会場全体風景

域の400余港と貿易往来があり、開設されたコンテナ航路は100を超える(写真-11)。

中国北域の交通中樞、現代物流機能、港湾貿易と港湾・海運情報の「四大機能」をベースに、港の海運サービス、国際中継、輸出簡単加工、海運研究開発という4つの機能を加える。これによって天津濱海新区(第2の浦東<sup>フトン</sup>)の経済発展を大いに促進している。

図表-1 第6回・日中韓物流技術交流会(訪中団)の日程表

日次	月日曜	発着地/滞在地名	交通機関名	摘要
1	2007年 6月20日	成田空港発 北京着	JL-781 専用バス	空路、北京へ着後、成田組と関西組合流後天津へ結団式
2	6月21日	天 津	専用バス	第6回中韓日物流技術交流会参加
3	6月22日	天 津	専用バス	第6回中韓日物流技術交流会参加 現場見学 天津港 天津天保岡谷国際物流有限公司(日中合弁企業の自動倉庫) 解団式
4	6月23日	北京発 成田空港着	専用バス JL-782	北京国際空港へ空路、帰国の途へ、通関手続後解散

図表 - 2 第6回日中韓物流技術交流団日本側参加メンバーリスト

		勤務先	役職	氏名
1	団長	株式会社ダイフク	常務取締役	早坂慎司
2	副団長	石川島播磨重工業株式会社	物流鉄工事業本部 理事・技監	星野修二
3	副団長	三進金属工業株式会社	代表取締役社長	新井宏昌
4		石川島播磨重工業株式会社	物流システム事業部 課長補佐	栗山博之
5		伊東電機株式会社	営業本部 営業部長	穴井伸輔
6		上海伊東電機設備貿易有限公司	IDS代表	郝 福英
7		株式会社ウェルキャット	バーコード営業1部 部長	小平 岳
8		株式会社ウェルキャット	研究開発部 部長	曾根康友
9		株式会社ウェルキャット	ソリューション営業部 次長	石川 剛
10		株式会社岡村製作所	物流システム営業部 課長	風間智雄
11		上海岡村家具物流設備有限公司	営業部	花 放
12		オークラ輸送機株式会社	第3営業部 部長	長嶺 正
13		株式会社協和製作所	営業部長	岡崎利彦
14		株式会社協和制作所	大連事務所	劉 兆福
15		三進金属工業株式会社	常務取締役 東京支社長	梶山秀二
16		株式会社ダイフク	エンジニアリング部 部長	嶋本恵造
17		株式会社デンソーエスアイ	事業企画部長	藤本 直
18		日建リース工業株式会社	物流機器事業本部 LPS事業部 次長	小林 巧
19		日建リース工業株式会社	物流機器事業本部 関東事業部 部長	田中智行
20		ニッタ株式会社	工業資材事業部営業部 営業部長	滋野隆広
21		ニッタ株式会社	工業資材事業部 海外部 部長	長穂智康
22		日本ニッタ株式会社 上海代表処	副所長	李 健
23		北京飛龍日恒科技有限公司	総経理	山崎 整
24		村田機械株式会社	L&A事業部 開発部 主任	湯浅良樹
25		村田機械(上海)有限公司	物流部(SE) 経理	荻田康生
26		村田機械(上海)有限公司	物流部 経理	路 廣平
27	事務局統括	株式会社流通研究社	代表取締役社長	間野 勉
28	事務局長	株式会社流通研究社	営業企画部長	吾妻芳行
29	事務局	株式会社流通研究社	海外営業室長	謝 建国

(現地参加含む・社名50音順、敬称略)

図表 - 3 日本側の交流会発表テーマと発表者(敬称略)

日付	時間帯	発表テーマ	会社名	役職	氏名
6月 21日	11:15~11:40	自動車部品加工ライン物流システム	(株)ダイフク	エンジニアリング部長	嶋本恵造
	13:55~14:20	岡村製作所の物流システム事業内容と医薬センター事例紹介	(株)岡村製作所	物流システム営業部課長	風間智雄
	14:20~14:45	Logistics & Automation	ムラタ上海有限公司 村田機械(株)	物流経理 L&A事業部 開発部開発課主任	荻田康生 湯浅良樹
22日	9:20~9:45	コンペヤ製品の紹介	ニッタ(株)	上海代表処副所長	李 健
	10:00~10:25	RFID活用による物流現場の改善について	(株)デンソーエスアイ	事業企画部 部長	藤本 直
	10:25~10:50	無線ハンディー最新活用事例	(株)ウェルキャット	バーコード営業1部部長	小平 岳

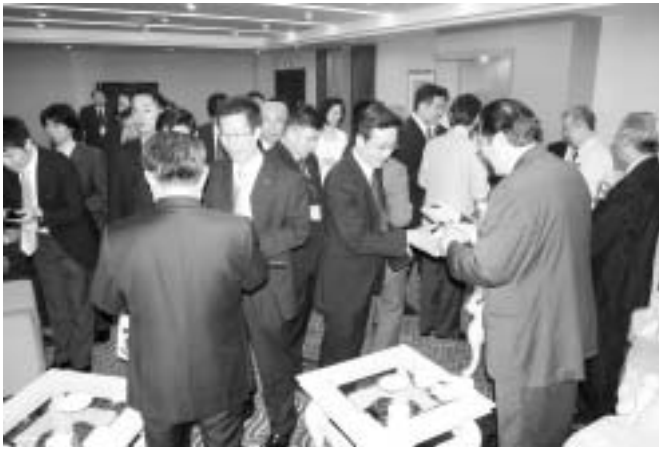


写真 - 2 開会式の前、中国国家発展委員会金旭副局長と中国物流・購買連合会陸江会長による歓迎式



写真 - 3 開会式で挨拶する代表メンバー（左から中国物流・購買連合会の呉清一副会長、日本代表団団長の早坂(株)ダイフク常務、中国国家発展委員会の金旭副局長、中国物流・購買連合会の陸江会長）



写真 - 4 ~ 10 交流会での発表の様様 / 左から(株)ダイフク・嶋本氏、(株)岡村製作所・風間氏、ムラタ上海・荻田氏と村田機械(株)・湯浅氏、ニッタ(株)・李氏、(株)デンソーエスアイ・藤本氏、(株)ウェルキャット・小平氏



写真 - 11 天津港の概略構成図



写真 - 12 天津天保岡谷国際物流の倉庫現場

## 天津天保岡谷国際物流有限公司

2002年に設立された岡谷鋼機(株)の合弁会社で、資本金は500万ドル。現地物流会社の天津天保控股有限公司・中国(天津)物資国際招商総公司・岡谷鋼機(株)という3社の合弁

社である。

訪れた同社の倉庫は営業倉庫で、敷地面積32,000㎡、倉庫18,300㎡(2棟)の規模があり、23,000パレット収納の立体自動倉庫設備を備えている(写真-12)。

\*

なお、次回の第7回交流会は2008年6月(北京オリンピック開催の2か月前)、中国南部にある経済発展地域の深センで開催する計画で、講演発表者は08年1月より募集を開始する予定である。

MEF